

【コラボ教育での学び

～多職種連携・地域連携を学ぶ：看護学ゼミナールの紹介～

2010年、世界保健機関より医療ニーズの多様化などを背景に、「専門職連携と医療協働の行動枠組み」が提案されました。すべての人々が健康になるためには、異なる専門分野の医療従事者の連携が重要とされています。本学は単科大学ということもあり、他の医療福祉系の学部との学生と交流する機会がありません。そこで4年生選択の看護学ゼミナール（通年、1単位）に、COC分野として「多職種連携・地域連携教育ゼミ」を設けました。今年度は17人の学生が履修しています。ゼミの活動内容は、市民や他大学他学部の学生との交流、看護職以外の医療専門職の活動場所への訪問などです。

これまでに行われた活動は、あざみ祭（学園祭）での一般の方へのCOC事業コラボ教育の紹介、須磨区まちづくり課の企画「須磨の見どころをSNSを通じて紹介」への参加です。また8月、9月には地域における専門職間連携を考える一助となるよう、理学療法士の地域活動に参加する機会を設けています。また10月14日に開催するCOC+事業連携大学（神戸市看護大学、神戸大学、園田学園女子大学）の報告会「COC+3大学合同報告会プラットフォーム」では、学生が中心となり報告会の企画や発表の準備を進めています。合同報告会では、17人の学生が口頭とポスターで「地域活動で学んだこと」「地域活動での学びを実習でどう活かしたか」について、発表する予定です。他大学、他学部の学生との交流を通して、共に学び合い、これから求められる連携のあり方を考えるよい機会になることを期待しています。合同報告会の開催内容については、本紙4ページの活動予定に掲載しています。（ゼミ担当教員 相原洋子・記）



合同報告会の企画についての
大学間会議の様子

【COC 研究ひろば 第9回

～地域診断を反映させた地域活動実践システムの評価と精錬化～

神戸市看護大学 地域・在宅看護学分野 教授 都筑千景

神戸市のあんしんすこやかセンターでは、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう地域特性をふまえた取り組みを行っています。この地域を的確に捉えるためのひとつの方法として、地域診断があります。地域診断は、地域のさまざまな情報を分析し、地域特性や課題、強みを把握してその地域に応じた支援策を計画、実施、評価していく一連のプロセスです。神戸市では平成24年度から3年間、全センターに対して基礎研修を実施し、昨年度から応用研修も行って、センターの機能強化に努めています。

本研究は研修開始当初より、この研修を経てセンターがどのように変わったのかを評価し、より効果的なセンター支援を検討しています。基礎研修では、センター活動において「積極的に地域に出向く」「住民と共に地域活動を展開」「広報活動の充実」につながり、日常業務においては「根拠ある地域特性や課題、強みが見える」「説得力がある説明と活動の広がり」といった変化が抽出されました。また、センター職員自身は「活動方法が具体的に変わった」「センター活動に意欲的になった」ということを感じるようになっていました。

しかしながら、多忙なセンターで活動の中に地域診断を取り入れるにはまだまだ課題がありました。より活動に取り入れやすくするためにはどうすればよいか研究班で検討を重ねた結果、従来のシステムを見直し、新たなシステムを考案しました。今は新しいシステムの試行と評価に取り組んでいます。本研究は地域の皆さんと直接かかわるものではないですが、この活動と評価を通じて、センターが地域に寄り添ったきめ細かな地域活動を行っていきけるよう尽力していきたいと思っています。



あんしんすこやかセンター
地域診断研修会